

## 団体の概要 (NGO/NPO用)

団体名 特定非営利活動法人ひむか里山自然

所在地	〒880-2105 宮崎市大塚台西3丁目40-10 TEL: 0985 - 47 - 8115 FAX: 0985 - 47 - 8115 E-mail: himusato@zpost.plala.or.jp		
ホームページ	<a href="http://www15.plala.or.jp/himusato/">http://www15.plala.or.jp/himusato/</a>		
設立年月	平成15年4月 *認証年月日(法人団体のみ)平成15年4月8日		
代表者	理事長 岩切 重人	担当者	岩切 重人
組織	スタッフ 32名(内専従 2名)		
	個人会員 32名	法人会員 0名	その他会員(賛助会員等) 0名
設立の経緯	特定非営利活動法人ひむか里山自然塾は、平成13年4月1日に任意団体の「ひむか里山自然塾」として設立しました。設立以来、ネイチャーゲームを中心に自然体験活動を行ってきましたが、今後、さらに、プロジェクト・ワイルドや自然観察などの環境教育指導者養成並びに環境保全啓発事業などを継続的に展開できるよう「特定非営利活動法人ひむか里山自然塾」を設立したものです。		
団体の目的	この法人は、住みよいまちづくり、即ちエコタウンづくりを推進するため、地域住民に対して、プロジェクト・ワイルド、ネイチャーゲーム及び自然観察等のプログラムの実践し、地域の里山等の自然環境と生活環境の保全を推進し、地域における社会教育及び環境教育の増進を図るとともに、地域の人々の健康と福祉に寄与することを目的とする。		
団体の活動プロフィール	<p>次の事業を行います。</p> <p>(1) 環境保全に関する調査・研究事業  (2) 環境に関する指導者育成及び環境教育事業  (3) エコタウンづくりに関する事業  (4) 地球環境保全に関する啓発・指導事業  (5) 地域の環境保全に関する広報・啓発事業</p> <p>過去3カ年間の事業実績は次の通りです。</p> <p>2003年度(平成15年度)</p> <p>1. プロジェクトワイルドエドゥケーター養成講習会: 2回実施  2. リバーフロントスクール(一ツ瀬川河口で実施): 2回実施  3. イヌワシモニタリング調査(日本自然保護協会助成事業)</p> <p>2004年度(平成16年度)</p> <p>1. プロジェクトワイルドエドゥケーター養成講習会: 2回実施  2. リバーフロントスクール(一ツ瀬川河口・加江田川河口で実施)  3. こどもエコクラブサポーター養成講座(宮崎県委託事業)  4. 野遊び入門講座(宮崎市委託事業)</p> <p>2005年度(平成17年度)</p> <p>1. プロジェクトワイルドエドゥケーター養成講習会  2. リバーフロントスクール(一ツ瀬川河口・加江田川河口で実施)  3. こどもエコクラブサポーター養成講座(宮崎県委託事業)  4. 地域子どもネイチャーゲーム教室にスタッフを派遣</p>		

活動事業費(平成17年度)908,414円

## 政策のテーマ 里山の生態系保護活動と自然体験活動フィールドの提供

## 政策の分野

- ・生物多様性の保全と自然との共生の推進
- ・森林、里地、里山、身近な自然の管理と利用

## 政策の手段

- ・環境教育・学習の場、機会の提供
- ・国有林の「遊々の森」制度を活用した里山の森づくりと自然体験教室の実施
- ・民有林の借り上げによる里山の森づくりと自然体験教室の実施

## 政策の目的

現在の里山は、燃料革命以来、人手による管理がなされなくなったことにより、荒廃が続いています。これらの荒廃した民有林や国有林を、里山として活用し管理することにより、森林環境教育や自然体験活動及び林業体験活動を実践するフィールドとして提供するとともに、モデル的な里山づくり施策を確立することを目的とします。

## 背景および現状の問題点

平成5年に制定された環境基本法第14条には、「生態系の多様性の確保、野生生物の種の保存その他の生物の多様性の確保が図られるとともに、森林、農地、水辺地等における多様な自然環境が地域の自然的社会的条件に応じて体系的に保全されること。」と定めています。

この生物の多様性が懸念されていることの一つに、われわれの身近な問題として都市近郊に位置する「里山」の荒廃があげられます。現在の里山は、燃料革命以来、人手による管理がなされなくなったことにより、荒廃が続いています。このように荒廃した里山を本来の多様な生物を育む場としての里山に復元するには、人手による管理を続けていく必要があります。

## 政策の概要

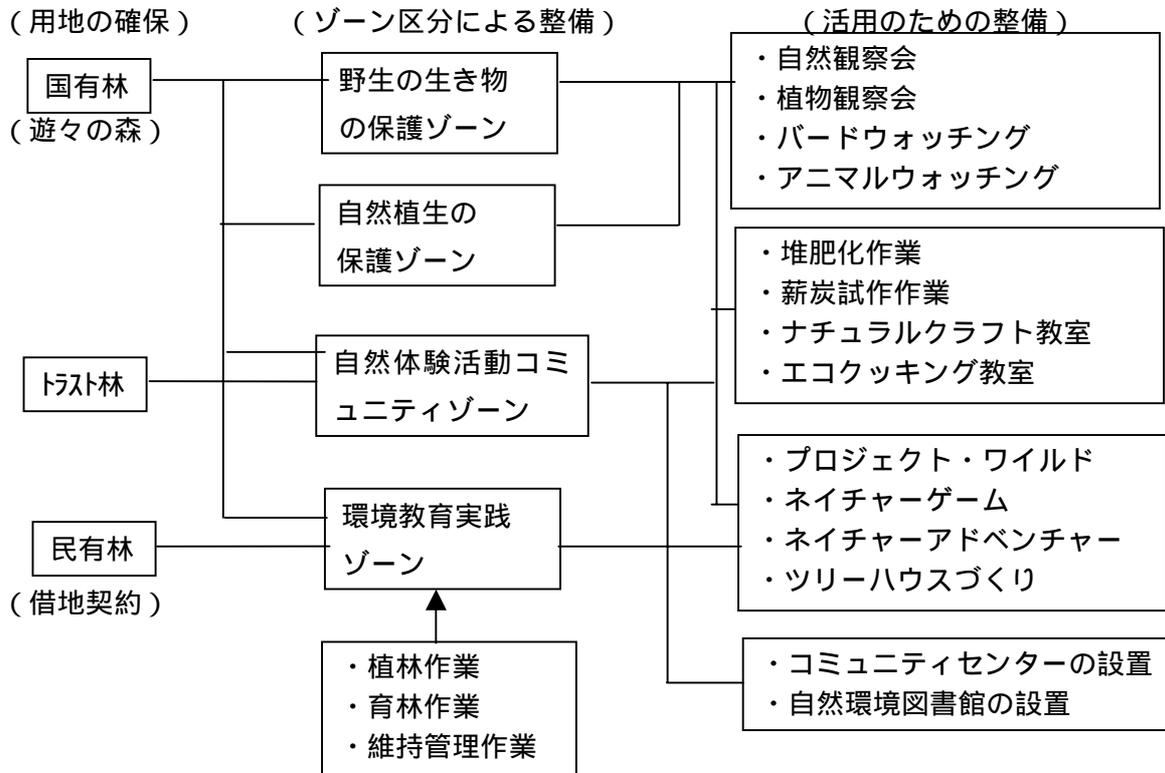
荒廃した森林をそのまま放置すると遷移により、照葉樹林などの極相林になります。人為的に管理し遷移を停止し、里山の生態系を維持するための森づくりを実施することにより、里山の本来の生態系を回復することができます。具体的には、地域の生態系や文化を育んできた里山を目指し、これまで里山を利用してきた農業者だけでなく、都市の市民が自然体験活動や環境教育のフィールドとして利用できる「里山の森」を造成します。

- ・里山の森づくりの場所として、次の方法を検討し、可能性の高いものから選定する。
  - 「遊々の森」制度により、国有林野を利用する。
  - ナチュラルトラストとして里山を確保する。
  - 民有地の山林を借用する。
- ・里山の森づくりの基本的な考え方
  - 人手による管理により保たれてきた種の多様性を確保できる里山とする。
  - 森林・環境教育の活動の場（フィールド）として活用する。
  - 当該里山と周辺の自然環境も含めたピオトープネットワークとして位置づける。
  - 運営・管理及び利用については、環境NPO等の環境保護団体の協力を求める。
  - 森づくり・運営・管理各段階で、各分野の専門家の助言を得ながら進める。
- ・里山の森の構造
  - 里山の森の構造として、種の多様性を確保するために次のゾーン分けをする。
    - 野生の生き物の保護ゾーン
    - 自然植生の保護ゾーン
    - 環境教育実践ゾーン
    - 自然体験コミュニティゾーン

団体名：特定非営利活動法人ひむか里山自然塾

担当者名： 岩切 重人

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）  
 まず用地を確保し、ゾーン区分ごとに利用目的をもった「里山の森」を造成します。次に里山の森を利用するための施設等を整備します。それと平行して該当する里山の森に適合した自然体験活動のソフトを開発します。



里山の森を活用のための整備として、次のような施設等を整備します。

- ・ネイチャートレイルの設置
- ・ベースキャンプの設置
- ・里山管理ゾーンの造成
  - 昆虫の森：クヌギ・コナラを主体にした森とし、カブトムシ・クワガタなどの昆虫が生息する森。
  - エコクッキングの森：エコクッキングに利用できる山菜を採取できる森。
  - クラフトの森：ミズキ・イイギリなどのクラフト材として利用できる樹木を育成する森。
  - 野生動物の森：ノウサギ、ネズミ類の生息環境を優先させ、野生動物の生息する森。
  - 環境学習の森：照葉樹林地帯に生育する樹木や野草を集め、植物学習の森。
  - 水生動植物の森：渓谷を利用して、水生動植物の生息できる止水域（簡易ダム）を設置。
- ・わんぱく冒険ゾーン：ツリーハウスづくりを行い、青少年の野外活動の場。
- ・森林素材の有効活用ゾーン：葉や落ち葉を利用して堆肥化作業や薪炭作業及びキノコ栽培体験を行うゾーンを設置。

政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

当該施策を推進するためには、行政、企業、NGO/NPOや地域住民の連携が必要です。各々の関係機関には次のような役割分担が考えられます。

- ・国の行政機関：国有林の「遊々の森」指定及びハードの整備に必要な財源の確保。
- ・地方の行政機関：「里山の森」を利用するためのアクセス手段などの公共施設の整備。その他、NGO/NPOが実施する自然体験活動を協働で実施する役割もあります。
- ・企業：企業は事業利益を社会に還元するという視点から、当該施策に対する財政的、人材的支援を分担する役割があります。
- ・NGO/NPO：当該施策実施主体となる団体として位置づけられる。里山の造成・維持管理をはじめ、利用活動するためのソフトの開発、自然体験活動を実施する。
- ・地域住民：当該施策に地域として可能な限り協力する。

## 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

- ・これまで荒廃した里山を本来の里山に戻すことにより、生物の多様性の保全と自然との共生を推進する効果が期待できます。
- ・これまでの国有林の「遊々の森」は、主に行政が中心に指定し、ハード面を整備しただけで、ソフト面が欠落しているため、あまり活用されていないのが実態です。当該施策は、官民が一体となって推進するため、自然体験活動を中心とした環境教育の推進に大きく貢献できます。
- ・自然体験活動を中心とした環境教育は、青少年の育成に大きく貢献できます。
- ・この里山の森づくりは、これまで農民が利用することによって生態系が保全されてきた里山に変わって、都市の住民が活用することにより、あたらしい里山の自然生態系の保全方法を開発するものであり、里山管理の新しい管理方法（里山管理マニュアル）を確立するもので、地域社会の発展に大きく寄与いたします。
- ・この政策は、青少年の豊かな人間性や社会性を培うために必要な「社会性の学習・訓練、生涯学習機能、地域における連携機能、ボランティア養成機能」を提供できます。
- ・里山の森に設置する自然体験活動コミュニティゾーンは、市民同士、地域住民との連携を強化することができる機能が期待できます。
- ・この施策は、エコタウンづくりの一環として位置づけられ、地域の発展に大きく寄与します。

### その他・特記事項

当NPO法人は、団体の活動プロフィール欄で記述しましたように、平成15年度から環境教育指導者養成を中心に環境保全活動を実施してまいりました。平成18年度から国有林の「遊々の森」制度により「ひむか里山の森づくり」を実施しています。

ひむか里山の森の設置実践計画の概要はつぎの通りです。

#### 1 基本設計

##### (1) 利用施設の設置

導入道：ベースキャンプからネイチャートレイルまでの遊歩道（約350m）を設置

ネイチャートレイル：約2,500mを整備及び設置

（導入道から自然林内の西尾根ルートに入り、スギ人工林の西斜面ルートを設置し、谷川沿いルートを通り、東斜面ルートを上がり東尾根から北尾根ルートにトレイルを設置）

ベースキャンプにミニログハウス、工具用倉庫及び簡易トイレを設置

##### (2) 里山の森の造林作業

昆虫の森：5,800㎡（クワガタなどの集まるクヌギやアゲハチョウのなかまの食草となるミカン科の樹木などを植林する。）

エコクッキングの森：7,100㎡（ドングリがエコクッキングに利用できるシイ類の樹木）

クラフトの森：16,600㎡（クラフトとして利用できる樹木を植林し、育成する。）

野生動物の森：18,500㎡（鳥類の生息環境としては、「実のなる木」が中心になる。）

環境学習の森：13,000㎡（森林の遷移の状態とか森林の公益的機能や里山における生活の歴史などが学習できる森づくりを行う。）

##### (3) 既存の森林や地形を活用して利用する森

わんぱく冒険ゾーン：4.86haの保護林をツリーハウスなど青少年の野外活動の森

水生動植物の森：簡易ダムを設置し、水生動植物の生息できる止水域のある森

#### 2 里山の森の造林作業の年度計画

初年度：昆虫の森の造成・ネイチャートレイルの整備及び設置

2年目：エコクッキングの森・ネイチャートレイルの整備及び設置

3年目：クラフトの森の造成・水生動植物の森・わんぱく冒険ゾーンの設置

4年目：野生動物の森の造成

5年目：環境学習の森の造成

「ひむか里山の森づくり」は、「セブンイレブンみどりの基金」と「宮崎県森林環境税」の助成で実施しています。